

ライフサポートひなた 訪問リハビリ

症 例 概 要 利用者氏名： 70代・女性・要介護4

病名：右被殻出血

既往歴：アレルギー性鼻炎、高血圧症

経過：2026年2月上旬 ご自宅近くのヨガ教室にてヨガを実施後、体調不良となり、A病院に救急搬送される。同院にて、右被殻出血を指摘され、保存的加療後に、2月下旬から竹川病院へ転院。左不全麻痺に加えて、高次脳機能障害（注意・遂行障害）も認められた。機能訓練によりADL全般で自立可能な身体になるものの、注意障害は残存し、屋外歩行時は見守りが必要となる。6月下旬に自宅退院し、2日後よりひなた訪問リハビリ開始。

内 容

70代女性。脳血管疾患による片麻痺と注意障害があり、退院直後は杖歩行を中心とした生活でした。ご自宅はエレベーター付きのマンションですが、外出時には15段の階段を降りる必要があり、ご主人との二人暮らしを安全に続けられるか、ご本人・ご家族ともに大きな不安を抱えていました。

そのようななか、ご本人が強く希望されたのが「もう一度ヨガ教室に通いたい」ということでした。私たちは、できないことを補うだけでなく、ご本人がこれまで大切にしてきた習慣や役割、楽しみを取り戻すことが、その人らしい暮らしにつながると考えました。ご本人の思いを支援の中心に据え、目標や練習内容について一緒に確認しながら取り組みを進めました。

理学療法士による歩行・階段昇降訓練に加え、ご本人も自主練習に真摯に取り組まれました。ご主人も日々の練習や外出を支え、ご本人・ご家族・多職種が同じ目標を共有しました。また、ヨガ教室への復帰を見据え、安全に行えるストレッチやヨガのポーズも練習に取り入れました。

その結果、階段昇降は徐々に円滑となり、屋外でも見守りのもと杖で歩けるようになりました。さらに、主婦として長年担ってきた料理や買い物にも再び取り組めるようになり、日常生活の自立度と活動範囲は着実に広がっています。ご本人が「自分で選び、自分で行う」機会を大切にすることが、自信と意欲の回復にもつながりました。

なかでも大きな一歩となったのが、ご主人と一緒に、二人の思い出がある近所のケーキ店へ買い物に出かけられたことです。生活範囲が限られていた状態から、「夫婦で思い出の店を訪れ、自分で買い物をする」という願いを実現できたことは、身体機能の改善だけを意味するものではありません。ご本人が大切にしてきた夫婦の時間や家庭での役割を取り戻し、その人らしい生活を再び歩み始めた瞬間で

した。

注意障害の影響により、集中を持続させることが難しい場面もありますが、私たちはご本人のペースや意思を尊重し、できていることや小さな変化をともに喜びながら支援しています。どのようなときも一生懸命リハビリに向き合う姿や、目標を達成したときに見せる表情からは、大きな喜びと自信の高まりが感じられます。その姿は、ご家族だけでなく、支援に携わる職員にとっても大きな励みとなっています。

現在は、杖に頼らない歩行の獲得と、より豊かで質の高い生活を目指して、日々リハビリに取り組まれています。今後も「ヨガ教室に戻りたい」というご本人の願いを大切にし、本人が人生の主演であり続けられるよう、ご家族・多職種が力を合わせ、その人らしい暮らしの実現を支援していきます。